

「全鍍連」 2016年 3月号 理事長のよこがお

四国鍍金工業組合 理事長 岩崎 秀雄 (高知精工メッキ(株) 代表取締役)

「日本の中の四国 アジアの中の日本」



四国鍍金工業組合の理事長になって7年目が経過しました。各単組の理事長は自動的に全鍍連の理事を務めることになっているのと、委員会活動にも参加していますので、私も理事長就任前と比べると、自然と出張回数が増えていきます。それまでは四国内での同業者との顔合わせが中心でしたが、今は全国の同業者の方と顔見知りになり話をする機会が多くなりました。その中で地方目線から見た、あるいは感じていることについて述べたいと思います。

ほとんど「ぼやき」になってしまいますが、一番大きく憂慮していることは四国が交通移動手段の発展において大きく取り残され、その差は広がるばかりだと危惧しています。

昨年は北陸新幹線が金沢まで開通したことが話題でよくでていました。また、今年3月には北海道に新幹線が通るといって大きな話題となっています。そしてリニア新幹線ももうすぐのところまでできています。

一方、四国に新幹線を通すという話題はほとんど出てきません。子供のころ、東海道新幹線開通のニュースをテレビで見て、いつか自分の住んでいるところにも新幹線が通るようになると思いながら半世紀が経過しましたが、自分の生存中に四国新幹線は厳しい状況だと言わざるを得ません。

地方創生が話題になっていますが、都市部への人口集中を回避し、地方で生活しようとする人を増やすには、まず交通インフラが整備されないとそのような流れにはならないと思います。少なくとも各県の県庁所在地までは新幹線で移動できるところまでは整備していかないと都市部への人口集中の流れは止まらないと考えます。このことは民間鉄道会社に任せるのではなく、路線ごとの採算面を度外視して国策として進めていく必要があるのではと思います。

もう一つは、四国にいるとあまり感じないのですが、日本国内にいる中国人観光客の多さです。昨年10月に福岡、また年末には北海道小樽に行ってきましたが、両方共、今自分が海外にいるのと錯覚してしまいそうでした。福岡の太宰府天満宮ではバス50台の団体と一緒に、各号車毎にガイドが旗をもって先導していました。その間にパラパラと日本人の観光客が混じっているという光景でした。その頃は中国人の「爆買い」が話題となっており、地理的にも福岡は近隣のアジアの国々に近いこともあり、ニュースで放送されている通りだなという感触でしたが、小樽での中国人観光客の多さは予想外でした。観光名所でフォトポイントにて聞こえてくるのは中国語ばかり・・・、またホテルでは仲間同士の中国語会話とホテル従業員との英語でのやりとりが聞こえてくるばかりで、たまに日本語の会話を聞くとほっとするような感じでした。

日本の10倍以上の人口を抱える国がすぐ隣にあり、またそこの人達が経済的に裕福であれば当然のことかもしれませ

んが、この観光客の数が今後2倍3倍となった時の事を想像してみると日本全体が呑み込まれてしまうのではと憂慮しています。

少し遅いかもしれませんが、自分の中で四国内とか日本国内とかいう感覚はなくなってしまう必要がありそうです。自分の目を見た地方目線、全鍍連の会合等を感じる日本目線、そしてこれからは海外から日本を見た海外目線も様々な方法を駆使して入手していかなければと思っています。